

2021 年度の大手前大学・大学院比較文化研究科

研究科長 鳥越皓之

大手前大学はここ数年、いろいろな改革を進めている。22年度からは、この大学院比較文化研究科の母体の学部である総合文化学部が国際日本学部に変更をする。それにともない、日本語教育や多文化共生というあたらしいメジャーも生まれる。この名称変更は大学院の「比較文化」という考え方に近づいたともいえよう。

他に2023年度に経営学部の新設が作業中であり、すでに学部の方針やカリキュラムも決定している。時代に適合した魅力的な学部となるだろう。また同年の2023年には国際看護学研究科の修士課程が誕生する。その結果、本学もふたつの大学院研究科をもつ大学となる。

制度的な変革としては以下の2点があった。ひとつは大学院の役職としてあらたに「教務主任」が生まれた。いままでは研究科長のみが大学院研究科の役職者であったが、研究科長を補佐する役割の者が正式に生まれた。2点目の変革は、当研究科は2022年度から秋入学（6月から7月頃に入学試験）を実施することになった。留学生の便宜を考慮したためである。

本年度は以下に述べるように、6名の院生に学位を授与する予定である。学位を授与するまでの教育過程で、多くの先生方の献身的な指導があった。その結果として院生たちも自分なりに満足できるレベルの博士論文や修士論文が書けたのではないかと思う。

* * *

7月3日に修士学位論文の中間報告が行われた。そして博士前期課程の以下の4名の院生が報告をした。

地見 元博：「近世法華宗寺院の成立 ―摂津国大願寺を事例として―」（研究指導：岡教授）

細川 由貴：「三田焼型物青磁の土型分類と変遷
―窯跡出土資料の分析をもとに―」（研究指導：岡教授）

何 婉テイ：「日中における男性アイドルグループ文化の発展・継続性に関する比較研究～uniqと嵐を事例として～」（研究指導：谷村准教授）

張 旭：「日中都市部の若年者の結婚観の相違 ―社会的・心理的要因に着目して―」（研究指導：中島教授）

また博士論文の最終審査が2022年の1月に行われ、次の2名に学位を授与することが決定した。

宮崎 弓佳里：「キルトとアメリカ文学」（研究指導：太田客員教授）

湯 艶：「地域コミュニティにおける高齢者ボランティア活動の分析―日本と中国との比較を通じて―」（研究指導：鳥越教授）

2021年11月25日に「第24回大手前比較文化学会」が開催され、博士後期課程の木田則子が「桜戸玉緒と芳文画譜」というテーマで報告をした。

また、研究発表として、本学教員である池田さなえ講師から「明治政治史における“宮中”」という発表をいただいた。たいへん刺激的な研究で、議論に花を咲かせた。